

ブックレビュー



『こうやって、考える。』

外山滋比古 著

PHP 研究所 刊 (TEL03-3520-9638)

定価748円 (本体680円+税)

著者 (1923～2020) は英文学を専門に『思考の整理学』『50代から始める知的生活術』などで知られる評論家、エッセイストとして活躍した。本書の「はじめに」でこう記している。「もっと短く、味わいのあるエッセイが書きたいと願いながら、年をとってしまった。いまさら、どうすることもできない。そう思っていたところへ、『発想力や思考力を磨くヒントになるような箴言集(しんげんしゅう)を、これまでの著作から抜粋して作らせてほしい』と申し出てきたのが PHP 研究所の出版部であった」。

没後の2021年12月に第1版が発行されて以来、読者の輪が広がっている。7章で150のヒントがページごとに整理され、親しみやすく読みやすい。「発想力を鍛える・思考のプロセス・思考力を高める・知性を磨く・思考につながる読書・発想が豊かになる“お

しゃべり”・未来を創る」と続くテーマは、「idea/process/think/life/read/chat/creation」というキーワードで構成される。同文庫の『ものの見方、考え方』『「考える頭」のつくり方』などを継ぎ、「思考の実践法」を説いた至言がお花畑のように広がっている。「『考えかた』の超入門書」というのが、本書の触れ込みだ。

しかし、どれだけ読者が著者の箴言にひそむ奥義を享受できるか。片言隻語の行間に広がる極意は深い。初冬の夜に暖をとりながらどうぞ。以下に、その一端を紹介する。

○**童心をたもつ** もの知りは発見のチャンスに恵まれることがすくない。無知なものにとってはすべてが謎で解決を迫っている。童心が理想である。知識をもちながら童心に近づくことができれば、創造的比喩はいくらでも生まれるはずである。

○**ヒマな時間をもつ** 忙しい人だけが、本当にヒマな時間をもつ。ヒマな人がヒマを感じることはできない。

さんかいの げん
(山海野 玄)